

令和2年 境港市議会 議会活動報告書

目 次

- 1 令和2年 境港市議会 議会活動報告書
発行に寄せて・・・P1
- 2 議会の構成・・・・・・・・P2
- 3 議会で審議した主な内容
(常任委員会・特別委員会)
・・・・・・・・P3～P18
 - ① 予算委員会
 - ② 総務民教委員会
 - ③ 経済厚生委員会
 - ④ 基地・空港港湾問題調査特別委員会
 - ⑤ 災害対策調査特別委員会
 - ⑥ 議会改革推進特別委員会
 - ⑦ 決算審査特別委員会
- 4 新型コロナウイルス感染症対策における
市議会の対応と活動・・・・P19～P22
- 5 その他の議会改革の取り組み・・・P22
(議会運営委員会)



境港市議会
令和3年2月

Ⅰ 令和2年 境港市議会 議会活動報告書 発行に寄せて

令和2年は新型コロナウイルスという目に見えない敵との戦いの1年でした。感染拡大によって私たちの日常生活、社会経済活動は大きな制限を受け、その影響は今なお続いております。

このような状況の下、市民の皆さんから直接ご意見をお聞きする大変貴重な機会である「市民と議会の懇談会」について、今年度は参加者の感染リスクを考慮し、開催を取りやめることといたしました。

しかしながら、私たちは市議会の最高規範である「境港市議会基本条例」に、情報公開に努め、市民に対する説明責任を果たすことを明記し、ひらかれた議会に向けた歩みを続けております。今年度については「市民と議会の懇談会」における議会報告に代わり、令和2年の議会活動を1冊の報告書にまとめ発行することといたしました。

議会改革推進特別委員会を中心に編集を行い、できるだけ分かりやすいものとすることを念頭に置き作成しました。多くの方々に手に取っていただければ幸いです。

境港市議会議長 森岡 俊夫

市民から直接選挙で選ばれた議員で構成され、市民の意思を代表する議決機関である市議会の役割と責務は、地方分権の進展に伴い、ますます大きく重いものとなっています。

そのために市議会は、二元代表制のもと市長その他の執行機関との緊張ある関係を保ちながら、広く市民との意見交換の場を拡充するなど市民にひらかれた議会活動を強め、また、議員同士の議論を活発にして政策形成及び行政のチェックという二つの機能を充実しなければなりません。

三方が海に面し、北東アジアに向かって開かれた豊かな自然環境とこの地域の特性をいかして、市民誰もが「境港市民で良かった」と思える、豊かで潤いのある境港市を創りたい。これが境港市議会議員の共通の思いです。

境港市議会は、この実現のために全力を挙げることを決意し、議会活動及び議員活動の最高規範として、この条例を制定します。

～ 境港市議会基本条例（平成26年4月1日施行） 前文 ～



★おことわり★

本報告書では各定例会で議員が行った一般質問については掲載しておりません。一般質問の概要については、議会だより「つなぐ」をご覧ください。「つなぐ」は市報折込、市議会ホームページでの掲載のほか、スマートフォンアプリ『マチイロ』での配信も行っております。

2 議会の構成

令和2年3月議会において、正副議長選挙及び、各常任委員会と特別委員会の委員改選が行われました。また、7月の市長選挙と同時に行われた市議会議員補欠選挙において当選した2名の議員を加え、現在は定数どおり16名の議会構成となっています。

正副議長（令和2年2月26日就任）

【議長】

森岡 俊夫



【副議長】

景山 憲



常任委員会・議会運営委員会・特別委員会 委員名簿（令和3年2月1日現在）

委員会名		構成 委員数	正副委員長	委 員					
常 任	総務民教委員会	8	正：平松 謙治 副：松本 照	森岡 俊夫 吉井 巧	柊 康弘 長尾 達也	荒井 秀行 田口 俊介			
	経済厚生委員会	8	正：永井 章 副：岡空 研二	米村 一三 足田 法行	築谷 敏雄 景山 憲	安田 共子 加藤 文治			
	予算委員会	16	正：平松 謙治 副：永井 章	米村 一三 柊 康弘 吉井 巧 田口 俊介 加藤 文治	岡空 研二 荒井 秀行 安田 共子 足田 法行 松本 照	森岡 俊夫 築谷 敏雄 長尾 達也 景山 憲			
	議会運営委員会	8	正：米村 一三 副：安田 共子	岡空 研二 築谷 敏雄	柊 康弘 田口 俊介	荒井 秀行 景山 憲			
特 別	基地・空港港湾問題調査 特別委員会	8	正：築谷 敏雄 副：柊 康弘	米村 一三 足田 法行	永井 章 加藤 文治	安田 共子 松本 照			
	災害対策調査 特別委員会	8	正：荒井 秀行 副：足田 法行	岡空 研二 吉井 巧	平松 謙治 長尾 達也	森岡 俊夫 景山 憲			
	議会改革推進 特別委員会	8	正：長尾 達也 副：田口 俊介	米村 一三 永井 章	平松 謙治 築谷 敏雄	森岡 俊夫 松本 照			

3 議会で審議した主な内容(常任委員会・特別委員会)

① 予算委員会

予算委員会は平成30年3月定例会で新たに設置した常任委員会で、全議員が委員となり、それまで総務民教委員会が行っていた「一般会計予算」と、総務民教・経済厚生それぞれの常任委員会で行っていた「特別会計予算」の審議を一括して行っています。

【令和2年3月定例会】

『令和元年度一般会計補正予算』と『令和2年度一般会計当初予算』、そして8つの『令和2年度特別会計当初予算』を審議しました。

※特別会計…国民健康保険費特別会計、駐車場費特別会計、下水道事業費特別会計、高齢者住宅整備資金貸付事業費特別会計、介護保険費特別会計、土地区画整理費特別会計、市場事業費特別会計、後期高齢者医療費特別会計

令和元年度 一般会計補正予算

<主な意見>

■小中学校内通信ネットワーク整備事業

- ・小中学校に高速大容量の通信ネットワーク環境を整備することは、GIGAスクール構想によるものだが、集団的な学びがおろそかにされ、教育の画一化につながる恐れがある。さらに教員の業務を増やすことになる。

<議案採決>

原案可決



新型コロナウイルス対策

小学校の臨時休校などにより午前から開設した児童クラブ指導員の賃金、保育園や児童クラブで使用する子ども用マスクや消毒剤などの費用

1,375万円



小中学校内通信 ネットワーク整備事業

国の補正予算を活用して、児童生徒1人1台のタブレット端末整備に向けて校内通信ネットワーク環境を整備、拡充する

1億1,615万円



可燃ごみ処理委託事業

米子市クリーンセンターへの委託単価の変更や、観光客の増加によるごみ排出量の増加などのため、処理委託料を増額する

6,594万円



健康診査事業

肺がん検診の受診勧奨の強化により受診者が増加し、検診委託料を増額する

53万円

<審査>

令和2年度一般会計当初予算歳入歳出全般にわたって、執行部からの説明を受け、審査を行いました。

<議案採決>

全て原案可決（全会一致）
※審査の過程で出た意見を
「令和2年度予算執行に
あたったの留意事項」と
してまとめ、執行部へ提
出しました。

（次ページに掲載）

令和2年度
一般会計 当初予算額
170億5,000万円

対前年度
△2億5,000万円（△1.4%）



**Sea級グルメ全国大会
in 境港実行委員会負担金**
境港市で開催される第13回みなとオアシス
Sea級グルメ全国大会にかかる総事業費
1,361万円のうち本市の負担金
821万円



**ロタウイルスワクチン
予防接種助成事業**

法改正で始まるロタウイルスワクチン定期接種の対象外
となる乳児も無料で接種できるよう市独自に助成する

256万円



3歳未満児の保育料引き下げ

幼児教育・保育無償化の対象にならない
3歳未満児の保育料を最大13%引き下げる

370万円



第三中学校施設整備事業

老朽化した第三中学校校舎の改修
（大規模改造、下水道接続）を実施する

3億5,153万円



**防災行政無線システム
更新事業**

防災行政無線のデジタル化を2年かけて整備し、
難聴地域の縮減など改善をはかる

3億7,627万円



自主防災組織育成補助金

自主防災組織が行う資機材整備や
訓練活動などへの補助金を結成後5年ごとに
利用できるよう制度改正した

135万円



市営住宅建替事業

市営誠道団地9戸分の解体と
5戸分の新築を行う

1億704万円



**再生可能エネルギー
活用調査・研究事業**

渡地区の適地に太陽光パネルを設置し、
近隣の公共施設に送電し活用するための調査研究を行う

1,217万円



市民温水プール改修事業

市民温水プールの老朽箇所や
トイレなどの大規模改修を行う

1億7,397万円



**まちづくり
総合プラン策定事業**

境港市が取り組むべき課題、めざすべき方向・目標、
実現に向けた施策や方針を定めた第10次総合計画を策定する

72万円

令和2年度予算執行に際しての留意事項

1. 観光入り込み客数の減少に伴い、市たばこ税などの減収が見込まれる中、自主財源の確保に努められたい。また、引き続き市税等の収納率の向上に努められたい。
2. 「再生可能エネルギー活用調査・研究事業」については、建設向けの確な判断が可能となるよう、土地の利活用方法や送電先の選定、工事費の積算など十分な調査と検討をされたい。
3. 可燃ごみの一層の減量に向け、家庭での水切りの徹底や混在する紙類の分別の啓発に取り組まれたい。また、福祉施設等とは、紙おむつの資源化などについて協議を行い、さらなるごみ減量化に努められたい。
4. 各種審議会、計画策定や広聴に係る会議などの人選に当たっては、従来からの選出区分にとらわれることなく、将来を見据えたまちづくりという視点を加味し、それぞれの会議の目的が達成されるよう図られたい。
5. 「生活困窮者自立支援事業」や「生活困窮者家庭等学習支援事業」などは、関係者相互の連携を取り必要とされる支援を見極めた上、しっかりとした伴走型支援を図られたい。
6. 重要課題である少子高齢化・人口減少対策などに係るセミナー等は、参加者の増加に向け、SNSを初め様々なツールを用い実効性を高められたい。
7. 「児童クラブ運営事業」は、現場の声を吸い上げ実態の掌握が可能となるよう、環境の整備に努められたい。
8. 「都市計画マスタープラン改定事業」については、将来のまちづくりを決定する重要なものであることを鑑み、広く市民の声を吸い上げる仕組みづくりに努められたい。

【令和2年4月及び5月臨時会、6月定例会】

令和2年は新型コロナウイルス感染症へ迅速に対応するため、通常の年4回の定例会のほか、「臨時会」が適宜開催され、対策に必要な補正予算を審議を行いました。

<主な質疑など>

■ふるさと応援地域振興券事業 … 5月臨時会

- ・厳しい経済状況を鑑み、発行した商品券の換金を1日でも早くすることができるよう求める。

その他新型コロナウイルス感染症対策全般について「国・県・市を問わず事業の内容や申請方法の十分な広報を求めろ。」との意見がありました。



5月臨時会 ふるさと応援地域振興券事業
全市民に一律1人5,000円の商品券を、子ども1人に5,000円の食事券を配布し、地元経済の活性化や市民の生活を支援する。
2億443万円